第 22 号
中学校教諭･懲戒処分修正裁決報道

【委員会決定を受けての北海道文化放送の対応】

日本民間放送連盟各社は、ＢＰＯの発足にあたり、「各委員会から問題を指摘された場合、具体的な改善策を含めた取り組み状況を3か月以内に委員会に報告し、委員会はその報告に対して意見を述べ、ＢＰＯが報告と意見を公表することを了承する」との申し合わせをおこなっている。
これに基づき北海道文化放送株式会社から BRC 飽戸委員長宛てに２００４年6月２１日付けで下記の内容の報告があった。
BRC は、7月２０日に開かれた第 90 回委員会でこの報告内容を検討、北海道文化放送が BRC 決定を真摯に受け止め、誠意ある対応をしたことを高く評価した。

委員会決定を受けての対応について

２００４年5月１４日に「中学校教諭懲戒処分修正裁決報道」に対する「委員会決定」の通知を受け、下記の通り対応をとりましたのでご報告いたします。

【視聴者等への告知】

1. 5月１４日、午後5時５０分から午後6時５４分まで放送の「UHB スーパーニュース」の中でおよそ2分、「委員会決定」について放送しました。
   また、6月６日、午前6時１５分から午前6時２５分までの「番組ホットライン」の中でおよそ3分、「委員会決定」について放送しました。

2. 5月１４日、北海道政記者クラブ、総務省記者クラブ、ラジオ･テレビ記者会、東京放送記者会に対し、「委員会決定」と、「UHB の見解」を文書で発表しました。UHB の見解は「委員会決定を受け止め、今後は取材･編集体制を強化するとともに、スタッフに対する人権教育をさらに徹底し、放送倫理と人権に一層配慮いたします」という内容です。

【番組審議会への報告】

3. 5月２４日、北海道文化放送番組審議会で、「委員会決定」について報告しました。

【報道部内の再発防止】

4. 報道部内で、放送内容のチェック体制を見直し、記者の原稿をデスク１名と、番組担当デスクがチェックする体制に加え、場合によっては、報道副部長、報道部長が企画段階から関わりチェックすることにしました。また、スタジオリード、キャスターコメントについて、誤解を招かぬ明確な表現で放送できるよう、オンエア担当の報道副部長がチェックすることにしました。

5. 5月17日、報道部員に対し、【「中学校教諭・懲戒処分修正裁決報道」のどこに問題があったと思うか】、【再発防止のためになにが必要なのか】などについてリポート提出を求め、28人全員から提出を受けました。

【社内研修】

6. 5月29日、北海学園大学法学部の韓　永學　講師〔研究テーマ　メディアやジャーナリズムに関わる倫理、法制研究〕を招き、報道部員、報道デスク、制作スタッフを対象に、放送表現の現場で、人権に配慮するためにどうすべきなのかなどについて研修会を開きました。

【社内処分】

7. 5月25日「委員会決定」を受けて社内処分を行いました。

「委員会決定」を厳粛に受けとめ、今後も引き続き研修などの機会を増やし、スタッフ教育の徹底をはかります。

以上